

高崎高校同窓会報

2020
No.54

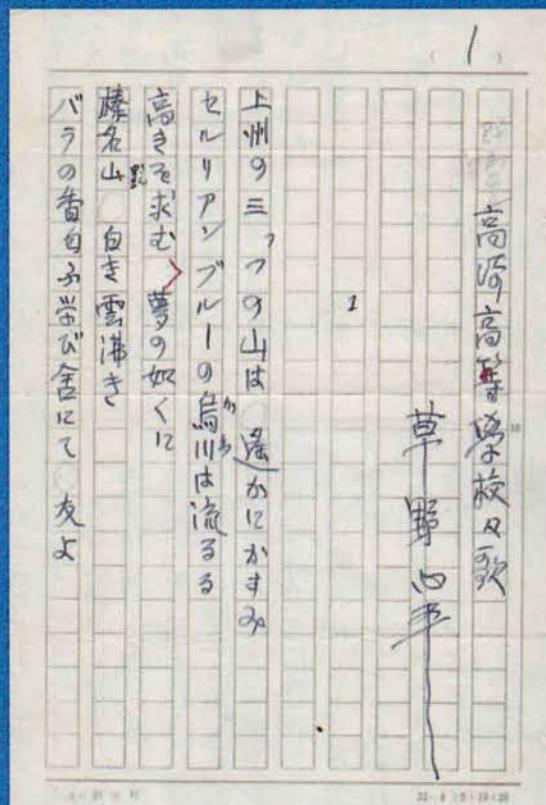
発行所／高崎高校同窓会 〒370-0861 高崎市八千代町2-4-1 TEL.027-320-6024

令和2年11月30日

コロナ禍で斎唱機会が激減した今年、 草野・芥川両氏により誕生した「校歌」直筆原稿(推定)が見つかる

昭和32（1957）年、
創立60周年を期に
新校歌が制定され今日に至る。

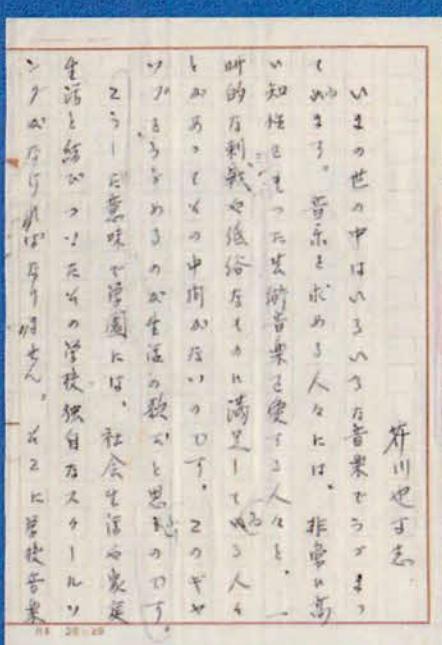
草野氏の作詞原稿



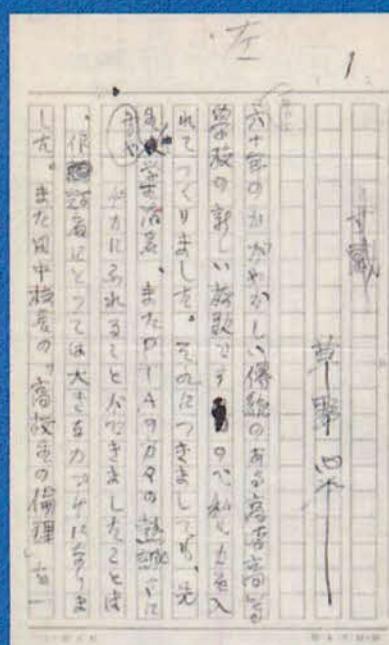
伝統校の高崎高（高崎市八千代町）で、60年以前の校歌制定時に作曲家、芥川也寸志（1925～89年）が直筆したとみられる楽譜や、作詞した前橋市ゆかりの詩人、草野心平（03～88年）の直筆とみられる原稿用紙に書かれた歌詞などの資料が見つかった。現在も歌い継がれている校歌で、校内で埋もれていたところ、生徒が偶然見つけた。同校は貴重な資料として、楽譜を額装して校内に展示する。

（令和2年2月15日「上毛新聞」より）

芥川氏の校歌に関する所感

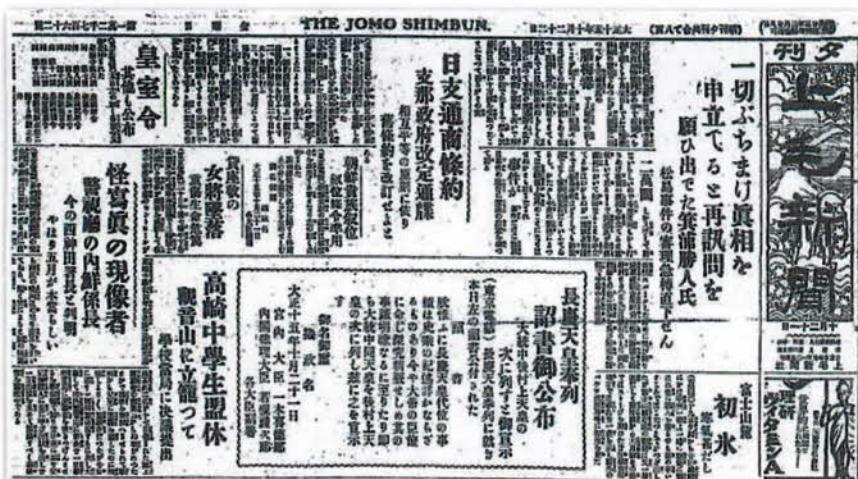


草野氏の校歌に関する所感



芥川氏の譜面





▲上毛新聞 1926年(大正15年)10月22日(金曜日)

消されたストライキ

戦前の学校では、生徒は学校の方針に素直に従つていて、実力行使で学校に対し異議申し立てをするなんてことはあり得ないと思つたが、なんのなんのわが高崎高校の先輩達は学校を相手に大立ち回りをやつて、時の上毛新聞の紙面を賑わせたこともあつた。

33期卒業生(昭和9年卒)から在学中ストライキをしたという話を聞いたことがある。しかし、このことは高崎高校の正式な歴史には載つておらず、それを確かめようはなかつたが、「高崎高

校80年史」の回想文欄に海老原英吉氏(33期)が、「昼休みに教室にてはいけないという校則に違反した生徒を新任教師が竹刀で殴打したことがきっかけで、それまでの執拗な厳しい指導に対する鬱憤が暴発し、朝礼開始時4年生全員が生け垣を越えて脱走し観音山へ向かつたが、乗附にさしかかったところで先生方に追いつかれ、その説得で帰宅させられた。」(要旨・昭和7年)とその顛末を述べている。その記述の中

に「生徒側も歴代の先輩のストライキ伝説を聞かされてきて『俺たちも…』との考えも潜在的にあったこともいなめない」とあり、ストライキはこの他にもあつたことが分かつたので調べてみると、昭和3年にも同じような騒動があつたことが分かつた。

このときは、修学旅行の引率教師が生徒の行動にあまりにも干渉しすぎると、京都の宿舎で教師をツルしあげた。帰校後首謀者と目された生徒が処分されると、これを不満として処分の撤回を求めストライキを決行することにした。その決行日には全員登校せず連隊北の坊主山に集合することにしたが、連絡が不徹底でこのことを知らずに登校した生徒もいて、彼らの説得で坊主山立て籠もりは不発に終わつた。両者ともに指導者不在、計画性なしで尻すぼみに終わつてゐる。

大正15年にもあつてこれはすごい。発端は他愛のないもので、運動会の学年対抗リレーの際、応援の5年生某が4

年生ランナーをメガホンで突ついて妨害、これが原因で5年生が優勝した。これに憤慨した4年生代表3名が学校に抗議したところ、学校はこれを取り合わないばかりか、この3名を自宅謹慎処分にしてしまつた。生徒達はこれに抗議して10月21日観音山に立て籠もり、次の3箇条の決議書を作成し学校側に突きつけた。

①3名の謹慎を命じた生徒に対しては之が処分を取り消す事

②学校当局が謹慎を命じた3名に謝罪する事

③リレー競技を妨害した5年生某は

学校長面前に於て謝罪の意を表する事

この決議書に結集した生徒側の団結は固く、父兄らの徹夜の説得と、学校側の「第二項を除き決議書の要求を飲む」との讓歩を引き出し、要求がほぼ認められたことで集会を解き、22日午前5時過ぎに解決した。

この勝利が「ストライキ伝説」となり、語り継がれたと思われる。それでも現在の高校1年生の年頃の生徒がよくもやつたものだとびっくりするが、当時はうち続々経済不況下労働争議、小作争議が全国で頻発しており、権力に対する異議申し立てをストライキという手段に訴えることはそう高いハードルではなかつたようだ。

しかし、昭和7年の五・五事件を契機に社会運動、労働運動への弾圧の嵐が吹き荒れる重苦しい時代になり、生徒のストライキのことは語られることはなく封印され、学校の歴史から消されてしまつた。

その後、昭和55年秋、上毛新聞に連

上毛新聞より 1980年(昭和55年)



▲12月9日掲載

▲11月30日掲載

▲11月25掲載

載された「学園物語」で、3つのストライキの当事者が、それぞれの経緯を詳しく語つていて、これによりタブーは消えた。これを受け「高崎高校百年史」(平成9年発行)では、大正15年のもののみ記載された。

(編集委員長 田端 積)

*坊主山 現在の中央小学校の近くにあつた小山
*観音山 まだ白衣観音はなく、

どうして立て籠もつたかは不明

感恩戴徳

—中曾根康弘元首相を偲ぶ—

中曾根先生の思い出



55期
高橋豪一郎

とある暑い日の昼下り、高崎市の区長会長の田端穰さんから電話がかかってきました。何事かと出ると、高崎高校の同窓会報に「中曾根総理の想い出」と云う題で何か書けと云う無理難題です。私如き者がそんな大それたことは御遠慮申し上げると固辞したのですが、高校・大学と一年先輩の田端さんに押し切られそうになり、そこで何故私がと伺った処、「永年中曾根先生の身近にいて青雲塾綱領のもとに教えを受けたのはお前くらいしか居ない」と云うことでした。そう云われてみればほとんどの人が私よりずっと年上で、すでに鬼籍に入ってしまい、残された者はなかなか思い出せません。その様な訳で先生の教えの様な堅苦しい話ではなく、私が見たり体験したことの徒然なるままに群盲象を評すの覚悟でやれと承知させられてしまいました。何せ私は理工系の人間で、文章力はからっきし駄目ですので、その点はご容赦下さいますよう伏してお願い申し上げます。

まず何故私が中曾根先生のもとに入ったか、と云うことから説明致しましょう。頃は昭和四十三年に行われた参議院選からスタートです。この選挙では、当時佐田建設社長の佐田一郎氏が立候補しました。佐田氏は群馬県建設業協会の協会長でしたので、県下の建設業者が一致団結して応援することを決議しました。高崎支部でも決起大会を開くことにして、応援弁士として、深谷駅に急行電車を停めた荒船清十郎代議士が本部から派遣されてきました。「わしは百や二百では話はしないぞ」と高飛車なこと云つましたが、会場(二中の体育館)に着いた処千人近い人達が今か今かと盛り上がりつけており、荒船代議士は気を良くして三十分の予定が一時間も弁舌を振るう程でした。それに注目していたのが中曾根事務所の職員達でした。この講演会の仕掛け人の一人が野口工業の野口徳茂社長で、間もなく野口さんの指示で私も中曾根先生の支持者の一人となつたわけあります。しかしあくまでも駆け出しですから、選挙が始まると弁士の予定の下見に行つたりの雑用専門でしたが、第三十四回の総選挙の頃

から岩鼻地区の支部長やら新風会、建青会の会長に指名され、陽の当たるところへ出られる様になりました。選挙運動にも巧拙がありまして、加藤現校長の御尊父の加藤隆さんはその最たるもので、票読みでは右に出る人は居りませんでした。加藤流の票の読み方は、信用のおける年輩者五~六人が各地区へ入つて地元の後援者に詳細を聞き、加藤さん独自のマジック数字から票数を割り出し、票が危うい地区へは、あやめ会員の女性たちが絨毯攻勢をかけると云う作戦で、大いに票を伸ばすことが出来るというものです。新風会は先生が名付け親で、どこの組織にも属さない若者中心の団体であり、大変愉快な仲間達でした。先生が総理大臣となってからは警察が二十四時間体制で警備するのですが、豊島区高田の自宅は狭すぎて十分に警備が出来ないので、もっと広い家へ引越すように云われました。ミスター巨人長嶋茂雄氏が所有している下北沢の邸宅を借りることが出来ました。その庭には三本の桜の木があり、満開の時には建青会とその家族が大型バス二台で訪問し、花見を満喫させて貰いました。その時偶々居合せた、高名な経済評論家の斎藤栄三郎氏のご高説を拝聴出来たのも楽しい思い出であります。

次は先生の読書についてです。旧い青雲塾会館を取り壊して新しい会館を作ることになりましたが、その時の問題は、二万冊と云われる膨大な蔵書を何処に保管するかと云うことでした。最初に私どもに白羽の矢が立ち立ち、2tトラックに3台分の蔵書を預かりました。その蔵はレンガ造りで床にパレットが敷いてあるので湿気はなく、火災の心配もないでお預かりしましたが、その量には只驚くばかりでした。最後まで先生の廻りで秘書をしていた殿地さんから聞いた話ですが、亡くなる少し前には量は少なくなりましたが読書欲は旺盛で、殿地さんも驚く程だったそうです。先生と書物の関係は只自分で読むだけでなく、ご自身による著書も多くあり、日々感心するばかりでした。先生の下で高度な内容の話をいろいろと聞いたり体験出来たことに、感謝するばかりです。

最後に、怖い政治の裏話を二題。首相公選を唱えた中曾根先生に対して右翼が、「中曾根は天皇になる気なのか、許せない」と全国に反対運動を始めました。身の危険を感じた先生は児玉誉士夫氏に右翼の代表二十五名集めて貰い、首相公選の考え方と天皇制の持論を説明した結果、全員が理解してくれて逆に頑張れと応援までしてくれたと云うことです。二つ目は衆議院の総選挙の最中に、建青会の会員である或る業者の従業員二名が熱心の余り、無断で他人の玄関へ入つて中曾根先生をお願いしますと云つてしまい、尾行していた刑事に捕まつてしまい、高崎警察署へ連れて行かれてしまいました。午後九時になつても戻つて来ないので、太田さんと云うベテランの秘書が高崎署へ行つた処、2人とも留置されているので大騒ぎとなり、県警本部まで行き釈放をお願いしました。しかし駄目で、当時のキャリアの課長が「中曾根が何だ」と発言してしまいました。この一言が東京に伝わり、二人は翌日釈放されましたが、当の課長は翌年の人事異動で自ら九州の離島の交番へ異動を希望し、離島へ行つてきました。なんとも怖い話ですねえ。

口は災いの元ですねえ。

ご挨拶



高崎高等学校同窓会長(71期)

坂本 正樹

本年1月の総会で会長を拝命しました。本同窓会は120年余の歴史を持ち会員数3万人余を誇る会であり、身が引き締まる思いです。私が拝命するに至った経緯は多くの方がご存じのとおりですから、その思いをより強くしています。

総会後の活動ですが、本部幹事を3グループに分けて、収支の改善、母校支援のあり方(部活などで使用しているバスの買換費用の募金活動など)、若い期や地区同窓会の助成、記念品の販売、広報の方法などの検討をすることとしました。コロナ禍が進展してしまいましたが、小人数の会議を開催するなどの工夫をして検討を進めています。

同窓会の最大の行事は新年懇親会ですが、この懇親会は「3密」の最たるものですし、食事もバイキング形式とせざるを得ません。各位の健康に障る危険性の高

いイベントとなりますし、新年懇親会の場でのクラスター発生は同窓会として大きな不名誉ともなります。楽しみにされていた方々や幹事期の90期の方々にも大変ご迷惑をおかけしてしまいますが、苦渋の決断として今年度は中止とさせていただきます。ただし、総会は現時点では「3密」を極力排除し、開催することを目指しています。

今回、同窓会長という母校に恩返しが出来る絶好の立場を与えていただきました。コロナ禍で活動もやりにくいですが、むしろこのような時代だからこそ、母校愛を發揮し、知恵を絞って、会の運営に当たりたいと決意しています。ウィルスに対しては個人の力はごくごく僅かなものではありますが、同窓会各位は「精神と知恵のスクランブル」を組んで立ち向かって行こうではありませんか。



高崎高等学校校長(78期)

加藤 聰

くちびるに歌を

今年度は「コロナに翻弄された」というのが私の実感である。年度当初の2か月間、学校は臨時休業を余儀なくされた。そして、6月からの学校再開に当たっては、ガイドラインが示され、それを遵守した(11月末現在、だいぶ緩和された)。

例えば、終業式を体育館等を使用して実施する際には、「生徒間の距離を約1メートル以上確保しなければならない」と示されている。そこで、今年度の1学期の終業式(7/31)は、第一体育館、第二体育館、翠巒会館の3会場で学年別に分けて行った。

しかし、全校生徒を集めて一体感を持たせる機会をぜひ設けたいと考え、各学年の終業式後に全生徒を校庭に集めて、十分な距離をとった上で全校集会(校歌斉唱、表彰伝達、生徒会長挨拶等)を行った。

そして、集会は校歌斉唱で始まった。生徒間の距離を十分に取っていたので、斉唱はマスクをはずして行った。

また、「狭い空間や密閉状態での歌唱指導」については「当分の間行わない」とされていたので、全校での校歌斉唱は、今回が今年度初めてであった。

そのようなこともあってか、皆思いを込めて校歌を口ずさんでいたので、本校の広い校庭にも校歌が響きわたった。

その間私は胸が熱くなった。これこそ高高だ、と感じた。今後もコロナとの戦いは続くだろうが、コロナに振り回されずに学校生活が送れるよう、自他共に激励するために、山本有三の『心に太陽を持て』という本から冒頭の詩の一節を引用をして、本稿を締めくくることにする。

心に太陽を持て(中略)

いつも、心に太陽を持て。

くちびるに歌を持て(中略)いつも、くちびるに歌を持て。苦しんでいる人、なやんでいる人には、こう、はげましてやろう。

「勇気を失うな。くちびるに歌を持て。

心に太陽を持て。」

昨年11月29日、本校同窓会名誉顧問でいらっしゃる中曾根康弘氏（35期）が逝去なさいました。101歳でした。新型コロナウイルス感染症予防の観点から、内閣・自由民主党合同葬儀が10月17日に行われ、本年4月15日に行われる予定だった県民葬は、11月12日に執り行われました。

ここに「特集」として、お2人の同窓生に、中曾根氏との思い出を寄せさせていただきました。

-選抜甲子園出場と政治を経験して-

81期
岩井 均

群馬県議会議員



令和元年（2019年）11月29日、様々な薰陶を受けた中曾根康弘元首相が逝去されました。101歳という年齢でしたが、まだまだお元気でご指導を頂きたかっただけに誠に残念でなりません。心から哀悼の誠を捧げます。

中曾根先生とのご縁は高校在学中から始まりました。私は野球部に所属し、高校2年の秋季県大会で優勝、その後の秋季関東大会で準優勝を収めた結果、昭和56年（1981年）、高高初の選抜甲子園大会出場が決まり、先生とお会いしたのは、そのすぐ後でした。

当時、先生は行政管理庁長官を務められておりましたが、公務の合間に縫って高高的グラウンドまで激励に駆けつけて下さいました。部員の前で挨拶をなさった後、「さわやかに ベストを尽せ ただそれでよい」という色紙と伊勢神宮の御守を一人一人にプレゼントして下さいました。

実は先生が来校される1、2週間前に、大先輩である福田赳夫元首相が中国料理のフルコースを部員にご馳走して下さいました。政治のライバルだったお二人とその支援者である先輩方の間に様々な思いがあったことも、今なら理解することができます。結局、甲子園での試合は石川県・星稜高校に11対1で力負けしましたが、多くの方々からご支援を頂き、貴重な経験をさせて頂いたことに心から感謝しています。

昭和63年（1988年）、私は縁あって、東京の中曾根康弘事務所に入りました。首相退任して間もなくの時であり、事務所には大臣はもちろん産官学金、文化スポーツ、芸能、外国要人など幅広い分野からVIPや著名人が訪れ、私は前首相の実力と影響力に感動させられました。

私は10年間先生の秘書を務めることになりましたが、多くの時を砂防会館にあった私設事務所で過ごし、先生の随行役

を行いました。いわゆるかばん持ちです。自宅は世田谷区上北沢にある長嶋茂雄邸を借りていましたので、その自宅に出勤し、先生の隣に乗ってトヨタ・センチュリーで事務所や会合等を回り、自宅まで送り届ける役目です。殆ど毎日一緒に過ごしていましたので、オーラは感じていましたが、普通のお爺さんだと自分に言い聞かせて接するようにしていました。

先生の著書である、「政治と人生」を口述筆記したことは忘れない思い出です。日本経済新聞社から「私の履歴書」の原稿を依頼されたことから、先生が口述したものをお手本でそのまま打ち込む作業を、正に二人三脚で行いました。夜、会合が終わり自宅に帰った後、21時頃から深夜までほぼ毎日口述筆記を行ったり、夏の軽井沢別荘の滞在中や年末年始の宮古島訪問にも同行し、約半年間かけて作業しました。先生の記憶力や文章力には脱帽したことを覚えています。この口述筆記は、最終的に「私の履歴書」に掲載されましたが、後に未掲載のものも含めて回顧録「政治と人生」の原稿になりました。

私は元来、教員志望でした。2~3年、政治の経験をしてから、教育の道に進もうと考えていました。しかし、我が国の平和と繁栄を願う先生の日々の政治姿勢を近くで拝見し、教育も大事だけれども、あらゆる分野に関する「政治」に大きな関心を抱くようになりました。

そして、平成11年（1999年）の県議選に出馬するよう地元から要請された時、先生に相談すると、出馬を快く認めて下さいました。先輩秘書に聞くと、先生が簡単に認めることは珍しいとのことでした。先生からは「知名度がないのだから、地元を3回回らなければならない」と貴重なアドバイスをして頂き、その通り実践し、地元のご支援を頂き、当選することができました。以来、安中市選出として6回当選させて頂いています。

座右の銘として、「結縁、尊縁、隨縁」を掲げています。縁を結んだら、その縁を尊び、その縁に従うというもので、縁を大切にするようにとの意味の言葉ですが、これは先生が毎年の衆議院手帳に手書きしていたものです。この言葉を今でも大切にしています。

高中・高高同窓会の幹事期の時、先生に同窓会への出席をお願いしました。既に90歳を超えておられましたが、「岩井君からの話であれば行こう」と快諾して下さいました。私たちの幹事期の時は奇しくも2回目の選抜甲子園大会の出場が決まった年であり、その上、先生が久しぶりに出席して下さったことから、大いに盛り上がりました。

先生から頂いた数々のご恩を忘れず、県政の発展に微力を尽くして参ります。中曾根康弘先生、誠にありがとうございました。

結びに、高崎高校同窓会のご発展と高崎高校の飛躍を心からお祈り申し上げます。

潮流

78期

仕事を通して 学んだこと

深井 彰彦

株式会社 群馬銀行 代表取締役 領取



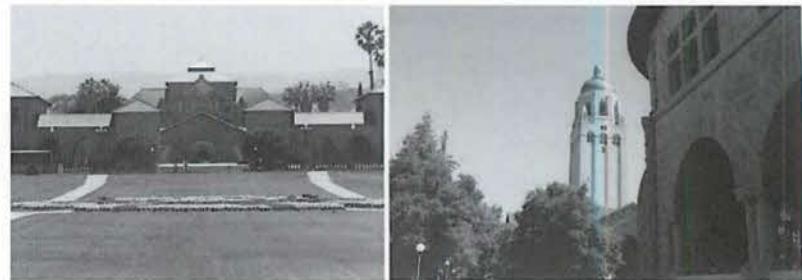
私が高崎高校に入学したのは1976年、卒業は1979年であり、78期生ということになる。卒業からはや40年以上が経ち、今年で60歳を迎える。現在の加藤聰校長は同級生である。地元の群馬銀行に職を得たこともあり、お客様にも職場の役職員にも多くの高高同窓生がいる。母校は身近な存在だ。

1976年の入学当初は木造の旧校舎が使われており、2年への進級時から現在の校舎に移った。同時期に大規模なグラウンドの改修工事も行われ、ほぼ現在の形となったと記憶している。高高在学中、私は吹奏楽部でホルンを吹いていた。3年生の時に10年ぶりに群馬県代表として関東吹奏楽コンクールに出場したのは良い思い出である。今でもクラシック音楽が趣味で、群馬交響楽団をはじめ多くの演奏会に通うし、ホルンも時々銀行の仲間と演奏する。あまり練習時間は取れないが、相応に演奏を楽しめることは、当時の練習の賜物と思っている。

高高卒業後、早稲田大学政治経済学部に進学した。自由な雰囲気の中で、ゼミの仲間と議論したり、オーケストラで楽器を演奏したりして充実した4年間を過ごし、多くの友人を得た。1984年に早稲田を卒業し、群馬銀行に入行した。当然地元に配属されると考え、東京に残る友人と別れて、高崎への引っ越しを済ませた直後、東京支店配属を命ぜられ、再び東京に舞い戻すことになった。友人たちにはすっかり呆れられた。

入行した1984年は、「バブル前夜」というべき時期であった。当時日経平均株価は、年初10,000円の大台を突破し、入行時は11,050円であった。円／ドル為替レートは入行時220円、その後250円近辺で推移したが、1985年のプラザ合意に基づいて大きく円高方向に修正された。この後、円高不況への対策としての低金利政策と内需拡大政策により資産価格の急激な上昇が起り、「バブル景気」に繋がっていった。日経平均株価は1989年12月の史上最高値38,915円に向かって行くこととなったが、私自身はそれを待たずに東京支店を離れた。

1990年に私は、海外留学の機会を得ることになった。群馬銀行は1980年代から「金融の国際化」と取引先企業の海外進出に対応し、1985年に初の海外拠点としてニューヨークに駐在員事務所を開設し、1988年にはこれを支店に昇格させていた。海外勤務要員の育成という考え方もあり、留学制度を設け、私がその候補に挙げられた訳である。「米国のビジネススクールを受験し、2年間でMBA（経営学修士）の学位を取得すること。学校は自分で選び、費用は銀行持ち。」という有難い指示であった。運よく第一志望のスタンフォード大学から入学許可をもらい、1990年9月に入学することになった。



スタンフォード大学

スタンフォード大学は、サンフランシスコの郊外、シリコンバレーの中心にある総合大学で、世界の大学ランキングで常にトップクラスにランクされる名門である。ここで2年間ビジネススクール（経営大学院）に通ったが、まず驚いたのはその環境の素晴らしいである。広大な敷地（8,180エーカー、正方形なら5.8キロ四方）にスペニッシュコロニアル風の建物が点在し、ゴルフコースや5万人収容のフットボールスタジアムなど、様々なスポーツ施設を保有している。15,000人の学生の半分は大学院生で、キャンパス内には木立に囲まれた家族向けの住宅があり、私も妻と当時7か月だった長男と3人でそこに住んだ。

MBAプログラムは、一般的に数学や統計などの数量的手法を用いた合理的・分析的アプローチを多用するイメージであり、事実そういう科目も多い。しかし、当時から直感力、対人スキル、組織における人間行動、コーポレートガバナンス、ビジネス倫理

など、定性的な要素を掘り下げる科目も多く、昨今注目されている企業統治のあり方、SDG'S的な考え方を先取りする面があった。授業のワークロードはとてもハードで、土日も含めて予習やグループスタディがぎっしりに入る。授業ではケーススタディが多用される。実際の事例に基づいてディスカッションを行うが正しい答えではなく、自分の意見を事実や理論でサポートしていく。議論は白熱し、60人を超えるクラスの中で発言するのは日本人にとって大変だった。また、学生たちの起業熱の高さも特徴的で、「優秀な学生は起業する」といった感じだった。2年間を通じて、ビジネスエリートがどう訓練され、ネットワークを築いていくかを見たことは有益であった。



スタンフォード大学卒業式にて

1992年にMBAを取得し、ニューヨーク支店に赴任した。開放的で陽光まぶしいカリフォルニアから伝統的な東海岸に移ってやや戸惑ったが、好きな音楽を聴く機会も増え、時間が経つにつれてニューヨークが好きになった。当時のニューヨーク支店は17名の体制で、米国に進出した地元企業への貸出に加えて、有価証券投資を主たる業務としていた。支店勤務の中で最も印象深く、また頼もしく感じたのは、地元群馬県の企業の活躍振りであった。取引先は自動車関連企業が多く、インディアナ、ミシガン、イリノイ、オハイオ、アラバマ、テキサス、カリフォルニアなど米国全域に及んだ。このころ私は各地に出張を重ね、訪れたことのある日本の県の数より米国の州の数の方が多かった。我々銀行員は、ニューヨークの様な生活至便な大都市に暮らしている。資産も貸出や有価証券で、他の拠点に移すことも可能だ。一方、取引先は見渡す限りのトウモロコシ畑の中に工場を構え、巨大な生産設備を保有し、少人数の日本からの派遣職員が50倍を超えるような多数の米国人職員と協力して事業を行っている。後には引けない。モノづくりの優れた技術を武器に、日系だけでなく米国や欧州の自動車メーカーと渡り合ってビジネスをしている姿に感銘を受けた。この時の経験が、のちの国内勤務の際に役立つこととなる。



ニューヨーク パークアベニューにて



出張先のアラバマにて

5年4か月のニューヨーク支店勤務を終え、1997年10月に帰国して総合企画部勤務となった。米国駐在は7年4か月に及び、3人家族は娘2人を加えて5人家族になった。高高を卒業して20年近く、ようやく群馬に勤務することとなった。総合企画部ではリスク管理や中期経営計画の策定といった業務を担当したが、これらの業務は10年後に部長として再び携わることとなった。この後、大阪、桐生、太田と3つの支店の支店長を務めたが、太田支店長であった2008年にリーマンショックが起こった。発生源は金融危機だが、実体経済への影響は大きく、群馬県経済を支える多くの企業が危機に瀕した。太田では、自動車関連をはじめとする多くの取引先が減産の影響を受け、多額の資金を必要とした。幸い私は主要な取引先の多くと米国勤務の頃からお付き合いがあり、また産業の構造や各企業の状況を比較的よく理解していたため、あまり慌てることなく資金対応ができた。お客様と力を合わせて危機を乗り越えたことを、今でも誇りに思っている。その後も、東日本大震災、そして今までコロナ禍と幾多の危機を経験しているが、地域金融に身を置くものとして重要なことは、地域の経済やお客様のビジネスを深く知るということだ。これが銀行員としての最大の武器だとしみじみ思う。

振り返ってみるとあらためて感じることは、私が仕事を通じて経験したことのすべてが今につながっており、どれが欠けても今の自分では無いということだ。昨今、転職等により若くして当行を離れる行員も少なくない。労働市場の流動化などに加え、地方銀行に関するネガティブな情報が溢れている状況では止むを得ない面もある。しかし地域社会に貢献したいといった志をもって入行した彼らが、銀行員という仕事の喜びや醍醐味を味わうことなく銀行を去っているとすれば、残念である。かのスティーブ・ジョブズは、スタンフォード大学で行った有名なスピーチの中で「点と点をつなぐ」という言葉を残した。彼も若い頃に悩みながら経験した様々な事を“dot(点)”と表現し、次のように述べている。

「将来をあらかじめ見据えて点と点をつなぎ合わせることはできない。できるのは、後からつなぎ合わせることだけである。だから、我々は、今やっていることが、いずれ人生のどこかでつながって実を結ぶだろうと信じるしかない。」

私は若手行員たちと話す折にはこのジョブズの言葉を紹介し、まずは与えられた仕事が何であれ目の前にあることに集中し、全てのことが未来につながると前向きに捉え、いずれ実を結ぶと信じて取り組むことが、成功に繋がる唯一の道だと伝えている。

新型コロナウイルスの感染拡大が、地域経済にも大きな影響を及ぼしている。私の銀行でも、全行を挙げてお客様の支援に取り組んでいる。今回の危機はリーマンショックや東日本大震災後に入行した若手行員にとっては、あらためて銀行員としての責務や仕事の価値を感じることができる機会である。彼らにとって、今回の経験が将来の成長に向けたプロセスのなかで重要な“dot”となるよう、彼らの育成やサポートに全力を尽くしたいと思っている。



薔薇の香匂う指月庭



獣医師

高槻 成東

私の同業者に、「祖父が高中的卒業生で文集に出ていっているのだが、下の名前がないので高高に行って調べて欲しい」と頼まれた。

そんなことで高高の同窓会の事務局を訪ねたところ、雑談の中で「指月庭が整備されたので草むしりをするOBを募集中です。是非お願いします。」と頼まれた。私としては、高高在学中に迷惑を掛けたことはあるが学校に貢献したことではないので、私の得意の草むしりで恩返しが出来ればと思い、参加することにした。

同窓会本部幹事長の立見先輩が、薔薇の手入れをする会を指月庭俱楽部と命名し、会は平成28年6月に発足しました。「草むしりが得意なお前が会長をやれ」という立見先輩の一言で、私が会長になりました。

指月庭の草むしりは毎月第2・4日曜日の午前9時より実施され、会員は現在10名です。随時募集もしています。薔薇の手入れが得意な人、草むしりが得意な人、薔薇の知識がある人、薔薇の花が好きな人、おしゃべりが好きな人、是非参加をお願いします。

指月庭の薔薇は芝生の中に植栽されており、芝生の管理は大変だが、芝生の縁が薔薇を引き立てている。現在の指月庭は、平成16年に再整備された。平成28年4月には、次の創立120周年に併せて新規に薔薇を植栽した。しかしまもなく、芝生の中に雑草が増殖し始めた。私が指月庭俱楽部に入会したのは、そんな時であった。芝生の中の雑草をピンセットで抜き取るのが得意な私は、時間が許せば指月庭に週に何回も行くようになった。

私は指月庭の草むしりに午後1時前後に行くのだが、高高生は誰一人校内をふらふら歩いていない。昔(我々の時代)は、授業に出たくない者は他人に迷惑がかからないように教室から出て、サボって護国神社や観音山へ行ったり、喫茶店へ行ったりできた良き時代だった。最近息子にその話をしたら、「高高には昔と違ってそんなバカな生徒はほとん

どいない」と怒られた。

指月庭俱楽部の最大の楽しみは、会員と関係者の懇親会である。今年は新型コロナの感染拡大防止のために、情報交換が出来ないのが非常に残念でならない。

毎年群馬トヨペットがその年のミスインターナショナル日本代表を招き、群馬県内で植樹祭を1976年より開催している。私は、高高の指月庭で植樹祭が開催出来れば面白いなあと思っていた。そこでダメ元で社長にお願いしたら、「今年は決まっているので来年であれば検討する」という返事をいただいた。そして、令和元年5月29日に群馬トヨペット主催の植樹祭を高高の指月庭で開催することができ、巡り合わせとはこういうことを言うのだとつくづく思った。

主催者の群馬トヨペット社長は我々の同期である大山駿作君で、後援の上毛新聞社社長も同期の内山充君、そして校長も78期加藤聰校長(高高出身の校長は意外と少ない)と、全て高高OBであった。

体育館で全校生徒出席の中、紅一点ミスインターナショナル日本代表(岡田朋峰さん)を迎えるセレモニーが盛大に開催された。その後、薔薇が咲き誇る指月庭で植樹式を行い、現在の同窓会長坂本正樹君をはじめ我々同期11名が見守った。

校歌にある、風吹きすさぶ木造校舎(学舎)は今はもうないが、薔薇の香匂う指月庭は卒業生と在校生が共有できるものである。井上房一郎大先輩が築いてくださったこの指月庭に関わり、高高のよき伝統がさらに栄えて欲しい。

最後に、私は卒業してから高高に行く機会を持たなかつたが、指月庭と関わることで多くの人と交流ができ、大変良かったと思う。

卒業生の皆様、是非薔薇の咲き誇っている指月庭にお出掛け下さい。そして、同窓会事務局にお寄り下さい。事務局では、気さくで美人の荻原純恵さんが歓迎してくれます。

たまには母校へ行って見たいと思いませんか?

寄稿

81期



「スローカーブはもういらない」 川端俊介君の思い出



株式会社オクトコーポレーション
代表取締役

宮下 洋之

「大会で一番遅いボールを投げようと思いました」。NHKテレビのスポーツニュースで17歳の川端が答えていた画面を観ながら、もし川端が今これを見たらどう思うだろうと考えていました。

81期の川端俊介君が逝去したのはこの放送より121日前の令和元年10月22日。ガンでした。高校時代、故山際淳司氏著「スローカーブをもう一球」という本で主人公となった川端君の逝去はニュースとなり、NHKで特集されたのです。

川端は高校時代、野球部(現在の硬式野球部)で投手として活躍し、3年の春には第53回選抜高等学校野球大会に出場しました。「スローカーブをもう一球」は、その出場を決めた秋の関東大会までの話でした。物語の中の川端は、我々の知る川端とは違っていました。その違和感を最も強く抱いていたのは、川端自身だったと思います。

本の中で川端は、スローカーブを駆使して強豪校をかわしていくクレバーな投手として描かれています。しかし本当の川端は、アウトコースの出し入れとややシート気味にインコースに食い込んでくるストレートで勝負する、強気のピッチングが信条でした。2年の秋には下級生にグローブを持って打席に入つてもいい、ぶつけても良い前提でインコースの練習をしました。また、ストライクゾーンに合わせて縦にゴム紐を張り、アウトコースの出し入れを磨きました。

川端は相手が強豪校のクリーンアップでも、2ストライクからインコースにぶつけても良いストレートを堂々と投げこんできました。バッテリーとして一番気持ちが良かったのは、打者がインコースに詰まってボテボテの内野ゴロを打ったとき、外の見逃し三振をとった時でした。それが川端のピッチングでした。

スローカーブは57期の細谷先輩に教えていただいたものです。ふつうのカーブより1.5倍くらい遅くフラフラやってきました。少し相手をバカにした感じになる良いボールでした。ただ、キレイないので、三振をとるとか、決め球にするとか、そんなボールではありません。1試合に2~3球投げる程度の遊び球

でした。そのボールが山際さんの目に留まり、川端のウイニングショットのようなイメージで世間に広まってしまったのです。2年の冬のことでした。

選抜が決まり春になると、学校全体がお祭りのようになっていました。川端と私は、甲子園の1球目はスローカーブにしようと決めていました。試合後のインタビューで、それを聞かれて川端が言ったのが、冒頭のコメントだったのです。試合は、1回戦石川県の星稜高校に1-11の大差で敗れました。とにかく残念な甲子園でした。

40代となって、やっと甲子園のことを普通に話せるようになりました。川端は、「あの頃は幼かったんだ。仕方ないよ。」と言っていました。私もイメージに乗っかって、初球にスローカーブを選んだことをずっと後悔していました。しかし、後輩が2度目の甲子園に出場してくれたことで、我々の後悔は思い出に変わりました。同期の境原が監督として、我々の後悔や残念だったことを全部受け止めて甲子園で闘ってくれたからです。結果は負けてしまいましたが、思いは繋がりました。

50代になり、翠巒クラブという野球部のOBチームで再び川端と野球をすることができました。日曜日の試合後、「ああ、人生で一番楽しい野球だな。」とよく話していました。その矢先、川端は病気になってしまい、帰らぬ人となってしまいました。

熟年野球でバッテリーを組んだ時、我々にスローカーブのサインはありませんでした。ほとんどノーサイン。もはやスローカーブは必要ありません。なぜなら、川端の投球はすべてスローボールになっていたからです。

川端俊介は生涯強気の男でした。勝負球はいつもインコース、ぶつけても良いストレートでした。

昨年10月、関東地区代表として本校初の「選抜高等学校野球大会」(センバツ)に出場した川端俊介氏がお亡くなりになりました。56歳でした。宮下氏は、故川端氏とバッテリーを組み、卒業後も友情を温め続けた故人の同級生です。(記:編集委員)



コロナ禍のニューヨークで考える

群馬銀行 ニューヨーク支店長

清水 郷平

縁あって、2019年4月から3度目のニューヨーク生活を送っている。1度目は、2005年2月から6か月間。2度目は、2007年8月～2011年9月までの約4年間。この2度目に、リーマンショックによりパニックに陥る金融業界と実体経済への波及を、現地で実体験した。そして今回。経済危機はほぼ10年ごとに繰り返されてきた歴史があり、景気サイクルにも波がある。そのため嫌な予感はしていたが、それが新型コロナウイルスのパンデミックとして現実化し、今回も現地で危機を実体験することになってしまった。

2020年1～2月、新型コロナウイルスはまだ遠い世界の話で、観光客で賑わう雰囲気は変わらなかった。ニューヨーク州で初めての感染者が確認されたのが3月1日。そしてあっという間に感染者累計が1万人を超えた。3月22日から事実上の都市封鎖（ロックダウン）が宣言され、街から人が消えた。4月は静まり返った街に救急車のサイレンが鳴り響き、コンベンションセンターやセントラルパークに野戦病院が設営され、毎日感染者が1万人以上、死者が500人以上のペースで増加していった。この頃を思い返すと、週に一度の食料調達も命がけだった。スーパーマーケットの入り口で両手にビニール手袋をつけ、ショッピングカートを消毒液のついたペーパーで拭き、短時間で買い物を済ませ、帰宅したら購入した商品をすべてウエットティッシュで拭き直すという決死のイベントになってしまった。私は潔癖症ではないが、そのくらい慎重にならざるを得ないほど感染の中心地で暮らすことに恐怖を覚えた。

足元では、一時の爆発的な感染状況は落ち着いている。これはニューヨーク州のクオモ知事のリーダーシップのもと、5月から慎重に経済再開を進めてきたからだ。クオモ知事は111日連続で会見を開き、ゆっくりとした英語と図表を使い、状況を丁寧に説明しながら、注意を喚起し続けた。マスクも公共の場で義務化され、手を洗うこと、人との距離を保つことが

盛んにテレビCMで流されている。現在、マスクをする習慣のなかったニューヨーカーのほとんどがマスクをしている。あの恐怖の経験がニューヨーカーにルールを守らせ、習慣を変えさせた。

それでも州の中で感染率が高かったニューヨーク市は、現時点でもレストランの店内飲食はできず、ミュージカルは年内休業、定員の50%までは出社可能なオフィスビルにも人は戻ってきていない。9月5日現在、ニューヨーク州の新規感染者数累計は約44万人、死亡者数は約3万2千人に達している。加えて、コロナを通じて、貧富の差や人種差別が露呈し抗議運動が頻発、銃犯罪も増加し、治安の悪化を感じている。大統領選を控えた時期であり、社会の混乱が収まるまでもう少し時間が必要だ。

ニューヨークの魅力は、文化・芸術、スポーツの最高峰をライブで体感できることだが、そのすべてがコロナ禍で成り立たなくなってしまった。今後コロナウイルスの影響で様々なことがオンライン化、疑似化、効率化していくのかもしれない。しかし、百聞は一見にしかず、本物を見て体験しなければ感じられないことは多い。自分で本物を直に確認していく姿勢は、今後も継続したい。人との関係についても同様だ。学校で一緒に活動したり、職場で苦労しながら一緒に働いたりすることで、信頼関係は初めて生まれてくるものだと思う。SNSは既に築いた信頼関係を継続することには有効であるが、初めからその関係を築く手段としては難しい。それゆえ、人との出会い、真剣な関わりも自分にとって必要不可欠だ。そして、できていたことができなくなり、人と会えなくなって、今という時間の重要性を実感し、今を大切に生きなければならないと感じている。

これからますます激動の世の中となるだろう。感染震源地ニューヨークで、今まで大切にしてきたこと、これから大切にしていくことを改めて考えさせられている。

寄稿

101期



リモートバンド活動

弁護士

上原 光太

平成14年(2002年)に高崎高校を卒業して、現在は高崎市内で弁護士として法律事務所を開業している上原光太と申します。

高校時代は特に法曹を志していたわけではないのですが、大学3年のときに法科大学院(ロースクール)というものができ、民間企業に就職できる気もしなかったので、この道を目指すことにしました。ロースクール卒業後、司法試験に合格し、司法修習1年、勤務弁護士3年半を経て、独立開業しました。独立してからは7年ほどになります。

高高では吹奏楽部に所属し、分不相応ながら部長も務め、顧問(当時)の萩原先生ご指導のもと、県の吹奏楽コンクールで金賞を獲り、西関東大会に出場することもできました。結果だけ見れば良いことづくめのようですが、もちろん、高校3年間の間には良いことも悪いこともあります。高校1年のときには、多感な時期でもあり、思い悩んで少し不登校気味になったこともあります。このままドロップアウトしてしまうのかなと割と本気で思い始めたときに、声をかけてくれたのは部活の先輩や同級生たちでした。この付き合いが長く続くことになります。

高校卒業後も楽器は続け、サークルに所属したり、バンドを組んだりしていました。ちなみに私は、ドラムやパーカッション(打楽器)を担当しています。大学生になると、高高時代の友人との交流ももちろんありますが、やはり大学の友人と付き合いが中心となるものです。それでも不思議なもので、大学の卒業が近くなると、また高高時代の仲間と音楽がやりたくなりました。そこで高高吹奏楽部出身のメンバー数人を中心に、大学以降に知り合った友人にも声をかけて、新たにバンドを組むことにしました。バンド名は、「フジハルカ」です。どこかで聞いたことがあるような…と思った方もいるかもしれません。が、本人は加入していません。大学を卒業する年齢になって

も、働いているメンバーがほとんどいないという、とても楽しいバンドでした。東京で一度ライブをやったりしましたが、さすがにメンバーの大半が働くようになり、なかなか時間を合わせるのも難しく、自然と活動は休止てしまいました。

それから10年近く経った今から3年前、当時のメンバーが結婚するというので、披露宴の余興という形で久しぶりに演奏する機会を得ました。メンバーは30代半ば、それぞれ仕事でそれなりに責任のある立場になりつつも、ある程度、時間や生活に余裕が出てきたこともあります。これをきっかけにバンドを再結成することになりました。新生「フジハルカ!」の誕生です。社会人になってから知り合ったメンバーなども加わり、現在は7人で活動しています。

再結成後は月1~2回の練習を続け、ライブも高崎で2回、前橋でゲスト出演1回、今年の1月には東京でもやりました。カバー曲だけではなく、徐々にオリジナル曲も増やしています。

ですがご承知のとおり、新型コロナウイルスが拡大し、ライブはもちろん、集まって練習することもままならなくなってしまいました。当初は、数か月すれば収束するだろうと楽観視していましたが、現状を見るにおそらく、仮に状況が落ち着いたとしても、今までと同じような活動はできないのだと思います。そこで流行りに乗って、リモートでの演奏や配信にチャレンジすることにしました。メンバーそれぞれ環境は異なりますが、録音の機材を整え、各自が録音した音源をミックスし、YouTubeで配信しています(興味のある方は、「フジハルカ!(公式)」で検索してみてください)。まだ曲数は少ないですが、オリジナル曲もカバー曲も、幅広くやっていく予定です。

高高時代に部活で始めた楽器を、やり方は変わっても、今でも趣味で続けられているのは、本当に幸せなことです。



今の自分に出来ることを

藤舎流邦楽囃子方

中島 一樹

令和元年6月、私は「藤舎英心(とうしゃえいしん)」という芸名を頂き、邦楽囃子方としての一歩を踏み出しました。

「邦楽囃子方」と聞いて、すぐにそれをイメージできる方は少ないのでしょうか。邦楽囃子方とは、歌舞伎や日本舞踊の伴奏音楽である「長唄」というジャンルの音楽を演奏する演奏家の中でも、小鼓や太鼓といった打楽器での演奏(囃子)を担当する人のことをいいます。歌舞伎の舞台を想像して頂いて、舞台の後に並んで演奏をしている人のことというとわかりやすいのではないかと思います。私は現在、国立劇場をはじめ日本橋公会堂や三越劇場などといった東京を中心とした劇場で演奏をしたり、舞踊会の地方(じかた)をさせて頂いております。その他にも、他ジャンルとのコラボレーション公演にも出演させて頂いております。

今でも自分がこのような活動をしているということに、不思議な感情を抱きます。私はもともと、邦楽には全く縁のない家庭で育ちました。私がこの世界に出会ったのは、大学を卒業してからです。高校卒業後に慶應義塾大学に進学し、その後就職をせずに東京藝術大学(別科)へ入学をしました。ここに至るまでに絶余曲折あったのですが、それを書くとなると5ページくらい必要なので今回は割愛させて頂きますね。

さて、今年はプロの演奏家になって2年目ということで、「よーこれからだ!!」と意気込んでいたのですが、新型コロナウィルスの影響で数々の舞台が中止になってしましました。演奏家としては、舞台で演奏することが何よりも大きなモチベーションであり、その機会を失うのはとても苦しいものです。現在では少しずつ演奏の仕事は戻ってきましたが、まだまだ大変な状況には変わりはありません。

しかし、新型コロナウィルスによって緊急事態宣言が発令された4月から現在までの約半年を振り返った時に、私はこの期間がマイナスだったとは思いません。この期間に今まで

やってこなかったことにたくさん挑戦出来ましたし、自分自身が成長できたと感じられるからです。「ピンチはチャンス」とはよく言ったものですが、まさにそれを実感しました。

コロナを機に始めたYouTubeでの子ども向けコンテンツ(『いっきおにいさんといっしょ』是非調べてみてください!)がきっかけになり、主に子どもを対象にした「オンラインお囃子講座」の先生をやらせて頂くことになりました。また、地元である高崎市にて、邦楽をより身近に感じて頂けるようなワークショップを開催させて頂いたりと、新たなフィールドでの活動の機会を得ることができました。地元の方々と密接に関わり、お話をさせて頂く中で、自分が群馬県の文化の発展に貢献できる存在であるということにも気付かされましたし、今後の自分の活動の方向性や、新たな可能性を見つけることができました。

私は、邦楽囃子方として一生をかけて自分自身の芸を磨き、一流の演奏家を目指していきます。それに加えて、今後も「自分にしか出来ないこと」に積極的に挑戦していくこう思います。邦楽に携わったことの無い方々には、もっともっと気軽に身近に体験できる機会を提供していきたいです。子ども達には、自分自身のキャラクターを活かして一緒に楽しめるようなコンテンツを、これからもどんどん作っていきたいです。地元である群馬県では、各地域でワークショップを開催したり、お店や施設などとコラボレーションをして地元を盛り上げる「町おこし」のようなものにも貢献できたらと考えています。

邦楽囃子方としての人生は始まったばかりです。これから「藤舎英心」がどのような演奏家になっていくのか、皆さん温かい目で見守ってくださいましたら嬉しいです。今後とも宜しくお願い致します。

◆◆ 公益財団法人「翠巒育英会」◆◆

PR

事業目的

(基本方針)

社会に有為な人材育成を図るため、群馬県立高崎高等学校に在籍する生徒に対し、奨学金給付事業などの教育奨励事業を行う。

(事業内容)

基本方針を踏まえ、3点の教育奨励事業を行う。

1 奨学金給付

経済的困難かつ学業優良な生徒に対して、公募によって申請のあった者に、必要資金の全部又は一部を助成

2 学校教育補助

学習活動、部活動など生徒の教育活動の中から、質の高い推奨すべき活動を行い、全国大会へ出場する者に対して、必要資金の全部又は一部を助成

3 教育環境整備補助

学習活動、部活動など生徒の教育活動の中から、質の高い推奨すべき環境整備を選考し、必要資金の全部又は一部を助成

令和元年度事業報告

令和元年 5月17日	第1回 評議員会 【平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・収支予算について】
5月23日	第1回 理事会 【平成30年度事業報告・決算報告、令和元年度事業計画・収支予算について】
6月19日	第1期分奨学金交付(3年生3名、2年生3名)
6月25日	令和元年度奨学生採用選考会(申請者9名・採用6名)
7月 8日	奨学生採用通知書伝達式(1年生6名) 第1期分奨学金交付(令和元年度採用1年生6名)
8月28日	第2期分奨学金交付(12名)
令和2年 1月15日	第3期分奨学金交付(12名)
1月25日	感謝状贈呈(ホワイトイン高崎) 【敬称略】鈴木 武文(51期)、小田切 一成(56期)、高橋 基治(56期)、小林 二郎(57期)、山口 潤一(72期)、秋山 賢治(74期)、82期同窓会ゴルフ大会幹事、89期同窓会新年総会幹事
3月24日 【書面による表決】	第2回 理事会 【令和元年度事業経過、令和2年度事業計画、平成2年度予算案、平成2年度資金調達、平成2年度設備投資について】 第2回 評議員会 【令和元年度事業経過、令和2年度事業計画、平成2年度予算案、平成2年度資金調達、平成2年度設備投資、令和2年度理事の選任について】

奨学金給付状況

1年生 6名
2年生 3名
3年生 3名



伝達式

給付金額: 10,000円 × 12ヶ月 × 12名 = 1,440,000円

令和元年度決算書

■ 収入		(単位・円)
正味財産(基金)運用益		4,655
寄付金		2,622,327
雑収入		12
合計		2,626,994

■ 支出

事務費	奨学金	1,440,000
	学校教育補助事業	185,000
	(全国大会へ出場した部活動への補助)	
	委託料	300,000
	支払手数料	264,512
	通信運搬費	13,477
	振込手数料	1,760
	雑費	12,634
管理費	旅費交通費	4,710
	支払手数料	1,100
	雑費	2,118
合計		2,225,311

2,626,994 - 2,225,311 = 401,683 (正味財産増額へ)

■ 正味財産 (基金)

* 当期首残高	51,459,080
* 当期残高増減高	401,683
* 当期末残高	51,860,763

(注)上記決算書は当法人の決算書の様式と異なりますが、皆様にわかりやすくするために、一般的な収支報告書の様式で表示しました。

歴代役員名簿

《昭和60年設立時》 《平成8年度》

役職	期	氏名	役職	期	氏名
理事長	29	原 一雄	理事長	42	小山 翔一
副理事長	32	柴山大五郎	副理事長	38	重田 精一
〃	42	小山 翔一	〃	47	須永 孝
〃	33	岡本 正己	〃	50	国峯善次郎
常務理事	51	田中 順	常務理事	51	田中 順

続きは次号へ

心臓血管外科医としての私の半生

自治医科大学附属さいたま医療センター
センター長補佐 心臓血管外科教授・診療科長

山口 敦司



孔子の書かれた論語に皆様ご存知の有名な一節があります。

『志学;吾十有五にして学に志す』

高崎高校にめでたく入学し、おぼろげな夢であった自らの将来像から実際の職業を意識した人生構築が始まり、いざ勉強をしなければならない、と思いついたのが15歳のころでした。クラスメイトであった齋藤繁君(現群馬大学病院副院長、麻酔蘇生科学教授)、内藤浩君(現群馬中央総合病院院長)とともに医学への道を歩むべく、昭和55年に群馬大学医学部に進学することができました。

『而立;三十にして立つ』

昭和61年に群馬大学医学部を卒業したのは24歳のことでしたが、最初の数年間は消化器・一般外科医としての修練でした。その数年後に生涯の師である先生(井野隆史先生:現自治医科大学名誉教授)と出会ったことで、わたくしの人生に大きな転機が訪れ、その先生が主任教授をされている自治医科大学附属さいたま医療センターで師事し、さいたまの地で心臓血管外科医としての修練が始まりました。およそ30歳にして自分の生涯を賭けて続ける仕事に出会いました。

『不惑;四十にして惑わず』

心臓血管外科医としての修練は手術に明け暮れる毎日で、家に帰ることもままならないようなこともありました。30歳代前半には理解のある伴侶を得てさらには子宝にも恵まれることができました。また30歳代後半では米国での2年間の留学生活で海外の文化に触れ、世界的に著名な方々や友人たちと交流することができました。30歳代の様々な経験を礎にして自分の中では心臓手術で惑うことが少なくなり、40歳になった時点で、東京都内にある板橋中央総合病院の心臓血管外科部長に抜擢され、小さいながらも一つの診療チームを任されることとなりました。

『知命;五十にして天命を知る』

50歳になってから、自治医科大学附属さいたま医療センター心臓血管外科の教授を拝命し、心臓血管外科診療チームの先陣を任せられることとなりました。自分が今、心臓血管外科医であることは自らの力だけではなく、見えない何らかの力?が働いて今の立場に居るのだとうことを感じております。見えない力とは神の思し召しなのか、DNAにプログラムされていたのかもしれません、家族や友人・恩師をはじめこれまで出会ってきた周囲の人々の支えが最も大きな力であったことは間違ひありません。わたくしの人生は『五十にして天命を知る』、孔子の予言通りであったような気がしてなりません。

『耳順;六十にして耳順う』

現在は58歳、大学病院での診療科長とセンター長補佐の役割を拝命しておりますが、これからの自分のるべきことは、若い医師や医療スタッフの人々の話に耳を傾けて、より良い診療チームを作り上げてゆくことと考えています。

心臓血管外科で取り扱う仕事の内容は、心臓および心臓に近い血管の外科手術による治療です。心臓疾患として代表的な弁膜症に大動脈弁狭窄症(心臓出口にある弁膜が動脈硬化によって固く変形して機能しなくなる疾患)がありますが、近年の高齢者人口の増加に伴い患者さんの数は著しく増加をしております。また急性心筋梗塞・狭心症(心臓の筋肉に栄養を送る冠動脈の血流障害)、胸部大動脈瘤・腹部大動脈瘤(大動脈にコブが生じて破裂のリスクとなる疾患)など、いずれも動脈硬化が原因で起こることが多く、高齢者に見受けられる疾患であり、その発生率や治療件数は年を追うごとに増加しております。そのため、我が国における疾患別死亡原因のうち、心疾患は悪性新生物に次ぐ第二位の死亡原因と

なっており、今後も高齢化社会に更なる拍車がかかることによって、患者数が増加することが予想されております。

心臓血管外科医が携わる心臓・大動脈疾患に対する治療のほとんどの場面で、心臓や大血管の一時的代用をするための人工心肺という器械を装着する必要があるのですが、その治療における歴史は比較的浅く、世界で初めて人工心肺を用いて心臓を停止した状態で手術が行われたのが1953年のことでした。本邦での第1例目は1956年のことでしたが、これは我々79期生が生まれるほんの数年前のことです。1967年には世界で初めて冠動脈バイパス術が行われ、同じ年に世界で初めての心臓移植が行われました。いずれも我々が4~5歳の頃の出来事です。本邦で初めて冠動脈バイパス術が行われたのが1970年、心臓移植が札幌医大で行われたのが1969年のことですので、このころの報道について記憶されている会員のかたもおられるかと思います。

我々が物心のついた頃に心臓手術が黎明期であったと考えると、その後の50年余りの間の急速な進歩については目を見張るものがあります。黎明期では、どのような些細な心臓手術であっても『一か八か』(50%以上の死亡率)というような命がけの治療であるとの認識がありました。人工心肺装置や手術方法・麻酔技術などの飛躍的な進歩によって、今現在では手術リスクが十分に予測できるようになっており、患者さんが安心して治療を受けられるようになっております。心臓血管手術総件数は年次的に増加傾向にある一方で、治療成績は良好なものになってきており、単純な日常的に行われている心臓手術であれば手術死亡率は1%に満たないものもあります。

心臓手術の治療成績が飛躍的な進歩を遂げているとともに、その治療に用いられる具体的な手法についてもその進歩は目覚ましいものがあります。心臓手術は命がけという認識はすでになくなり、より患者さんにやさしい治疗方法が開発されつつあります。前述した大動脈弁狭窄症に対する治療方法は、胸の真ん中に20cm以上の大好きな傷を作り、人工心肺装置を装着して心臓を停止させて、動脈硬化によって劣化した大動脈弁を切り取って人工弁に取り換える手術が一般的でした。ところが、10年ほど前にカテーテル治療を駆使した方法(TAVI; 経動脈カテーテル的大動脈弁留置術)が紹介され、足の付け根に小さい傷をつけるだけで、人工心肺もいらない画期的な治療法が普及するようになりました。現在このカテーテル治療は、リスクの少ないやさしい治療法として高齢者の方々に優先的に行われておりますが、今後さらに普及することが予想されております。

ここに記した大動脈弁に対するカテーテル治療以外

にも、患者さんにやさしい治療法として、数cmほどの小さい傷での弁膜症手術(MICS; 小切開心臓手術)やロボットを駆使した弁膜症手術などが10年ほど前から欧米で普及するようになり、本邦でも数年前からこの治療法が行われるようになっております。患者さんにとっては、入院期間短縮・早期社会復帰が見込まれ、これまで以上に心臓手術が気軽に受けられるようになっております。

ここに述べましたように、心臓血管外科の歴史は我々の生誕の頃から目まぐるしいスピードで進化を遂げてきたわけですが、今この瞬間にも新しい技術革新が進められているのが現状です。私がこの仕事を選んで本当に良かったと思うこととして、心臓血管外科医であれば自らの手腕を用いて患者さんの命にかかわる治療に携わることができる、ということがあります。さらにその治療手段が伝統的かつ単一的な手技の踏襲で解決できるものではなく、常に新しい技術革新に目を配らせ・耳を傾け・自ら取得してゆかなければならぬということです。おそらくはIT産業の分野でも同様なこと、あるいはこれ以上の産業革命が常に起こっているのでしょうか、我々はその時代という大きなうねりの中で、中心的な推進力となるべく生涯惜しく述べなく努力し続ける必要があるのです。

2020年になって、世界はコロナウィルス禍の脅威に曝され、感染の恐怖下で新たな生活様式を取り入れることを求められ、経済恐慌も底をつくことがない、という不安な日々が続いております。恐ろしいウイルスとの戦いは、まだ収束のめどが立たずに、ウイルス感染者数は日々増加しておりますが、我々心臓血管外科医の技術や知識はこの脅威の前では無力であり、ただワクチンや特効薬の開発を手を合わせて祈るばかりです。

高齢者にはコロナウィルス感染重篤化のリスクがあると言われている一方で、統計学的にこの時期に心臓・血管疾患での治療が必要な患者さんの数はコロナウィルス感染者よりもはるかに多いという事実を見逃してはなりません。行動自粛による診療控えや内服薬の自己中止によって、心臓疾患が重篤化して救急搬送される患者さんの数も増加しているのです。コロナウィルス感染予防も重要ですが、それと同時に心臓・血管疾患にも予防策や早期発見・治療の方法があります。会員の皆様におかれましても少しでも心臓・血管に不安をお持ちの方がいらっしゃいましたら、気軽に近くの循環器を標榜されている医療機関にご相談されることをお勧めいたします。前述いたしましたように、治療方法は日々画期的な進歩を遂げており、皆様の病態にあった気軽に受け入れていただけるような良い治療法が見つかることは必ずあります。

◆◆掲示板◆◆

同期の皆様へ

49期 高橋 一夫 Tel.027-362-9043

卒業以来、毎年開催してきた49期同窓会。本年は、新型コロナウイルスの感染拡大の為中止、記録は69回で中断。来年度は愈々昨年の同窓会で決定した最後の会になります。是非多数の参加を得て、49期有終の美を飾ろう。

50期 八木 資親 Tel.027-322-4427

高崎市鶴見町14-5

米寿を迎えた同期諸兄お元気ですか。東京オリンピックの延期、年一回の同期会はコロナ禍によって中止。再会の楽しみを奪われたが、長い人生で培った忍耐力で凌ぎ、是非再開催を期したい。益々のご健勝を祈ります。

52期 深澤 岩吉 Tel.090-4954-7045

iwakichi1131@nifty.com iwakichi1131@docomo.ne.jp

52期の「新高会」は平成26年10月に「傘寿の誌上クラス会」と題する記念誌を刊行し納会した。その後の交流は正月の高高合同同窓会のみです。参加者数が少ない。コロナ騒ぎが終息したら是非参加して下さい。

53期 本木 孝雄 Tel.080-1068-3014

東京二水会 第二水曜毎月昭和50年～平成29年約400会 世話人 芹澤實 小林桂一郎 五十嵐久泰
高崎一水会 第一水曜毎月平成4年～令和2年4月
近日再開予定 年一回全員継続 山口英雄 須田義幸 小池亮 須長莞次

56期 湯浅 潔 Tel.027-327-8711

前略 每年1月第4土曜日PM6時より、旧ビューホテルにて新年総会を行う事に成って居ります。今年はゴルフコンペは中止と思います。新年会については、何かアトラクションを考えております。

57期 山口 保男 山口歯科医院

今年は新型コロナウイルスの為あらゆる会合がキャンセルとなり、同期の集まりもまだ行っておりません。何年か前に先輩が、80才となり出席するだけで健康を害するので同窓会をやめることにしたと聞いております。本年から初めて新年総会に招待状をいただきました。幹事の皆様ご苦労様でした。元気で出られる内は出席したいと思っています。

58期 山口 正敏

連絡先:中島良夫 090-6103-7848

コロナ禍で同期会の最終回開催日が確定していませんが、今しばらくお待ち下さい。

会費の残金は、皆さんのご意思で翠巒育英会へ寄附させていただく予定です。

63期 羽鳥 修司 Tel.090-8683-0323

hatori-uonaka@dan.wind.ne.jp

今年は新型コロナ騒ぎで活動できませんでしたが、月例会は月末土曜日、年末の忘年会も継続して開催する予定です。年齢を重ね参加者も減っています。元気体力が残っている皆様の参加をお待ちしています。連絡下さい。

64期 神田 昇 事務局:Tel.027-386-6800

神田:Tel.090-1857-0912

64(ロクヨン)の友人。ご連絡です! 1月・懇親会(第4土曜日)、6月・懇親会とゴルフコンペ、10月・ゴルフコンペ。このパターンは毎年繰り返され、永遠に続きます。みんな、元気でな!

70期 佐藤 修 Tel.027-322-3943

70期同窓会を毎年1月の高崎高校の総会・同窓会と同じ日の18時から、高崎駅前の豊田屋旅館(園原豊君)で開催しています。出席の方は直接豊田屋まで連絡して下さい。電話:027-322-3137

71期 坂本 正樹

spa.ghetti-you@etude.ocn.ne 佐々木

原則第3土曜日の18時から井野駅前のオリーブに集まっています。また、母校バラ園の整備も「指月庭倶楽部」として、71期を中心に第2・4日曜日の9時から行っています。多くの方の参加をお願いします。

76期 須郷 弘 Tel.090-3149-7299

76期は夏のオリンピック・パラリンピック開催の年に同期会を開催してきましたが、今年はコロナ禍にて延期になりました。来年オリンピック・パラリンピックが無事開催される事を祈ります。

メッセージ

◆各期代表幹事◆

77期

松本 基志 Tel.090-1604-4689
motoshi@able.ocn.ne.jp

今年はオリンピック開催年なので、77期同窓会の開催年でもありました。しかし、残念ながら、コロナの影響で延期しました。一日も早くコロナが終息し、皆で会える日を楽しみにしています。それまで、皆さんお元気で。

78期

高橋 浩生 Tel.090-3683-8931
toorih.e15-0108@dream.com

加藤校長をはじめとし、我々の環境が大きく変化する歳です。メーリングリストも届かない同期生が多くなっています。個人のアドレスかスマホアドレスへの変更を、私(浩生)までご連絡をよろしくお願ひいたします。

80期

笛口 修男 Tel.090-8305-3805
mssasaguchi@m2.dion.ne.jp

なかなか大変な世の中になりました。ちょっと意味が違いますが、しばらくは小国寡民で行くしかないかなと思っております。同期会は状況が許せば行きたいと思います。

祈コロナ退散

81期

岩井 均 Tel.027-393-5447

同窓会新年総会日に開催している81期懇親会は、新型コロナ禍を考慮し、今年は中止とさせていただきます。来年の再開を楽しみにしています。

82期

野口 俊康 Tel.090-2543-3014
yasunog-gun@umin.ac.jp

今年はコロナで自粛ムードが続き、皆さん苦労されていると思います。医療機関も患者さんが減って大変です。でも、ピンチをチャンスと捉えて頑張っていきましょう。今度オンライン同窓会をやりましょう。

83期

小此木 正信 Tel.090-3319-3354

今年の第27回高崎高校同窓会ゴルフ大会は中止となりましたが、来年の5月には改めまして83期が担当幹事として「withコロナ時代」における感染症対策の下、開催をさせていただきます。宜しくお願いします。

87期

静 和彦 Tel.090-8879-0939
shizukak@sea.plala.or.jp

みなさん、こんにちは。新型コロナウイルス流行のため同期会やゴルフ会も開催できず、少し寂しい一年となりました。流行が落ち着きましたら、また、みんなで楽しくやりましょう。呉々もご自愛下さい。

88期

亀田 慎也 Tel.090-3683-8931

「五十而知天命」。88期は今年五十歳を迎える歳です。人生100年時代と言われる昨今においては、折り返しの歳。これまでの自己を振り返り、人生をどう全うすべきかを考え、新たな挑戦を試みる歳にしたいものです。

89期

井上 幸己 Tel.090-8879-0939

第118回新年総会にご参加くださいました皆様、また設営してくれた同期の皆様、ありがとうございました。89期は毎年11月の第4土曜日に同期会を開催していますが、今年はコロナウイルスのため中止となります。

91期

市川 英久 Tel.090-7105-7406

2022年の同窓会新年総会は、我々91期(平成4年3月卒)が当番期となります。今は皆で集まることが出来ませんが、来る幹事年に向けて何ができるか、知恵とパワーを結集しましょう。

94期

廣瀬 一成 Tel.080-5471-5207

FACEBOOKでグループをつくりています。94期(95年卒)・高崎高校で検索してください。LINE希望の方は、私のTELまでご連絡ください。

通信制

山本 好一 Tel.090-2543-3014

令和3年2月21日に定期総会を予定しています。新型コロナ感染症が終息していれば、懇親会を行いたいと考えています。
会員の参加を待っています。

母校だより

第68回 翠巒祭 無念の開催中止 テーマ「Fire Work」

第68回翠巒祭の開催中止について、開催を楽しみにしてくださっていた皆様にはご迷惑をおかけしました。ご理解頂き感謝いたします。

昨年6月より、実行委員全体で時間をかけて準備を進めてきただけに、私達もとても残念です。準備をするにあたり、多くの方々

の支援を受けて翠巒祭ができていることを実感しました。本当にありがとうございました。そして、今後ともよろしくお願ひします。

開催には至りませんでしたが、第68回翠巒祭実行委員長を務められたことは本当に光栄です。

実行委員長 3年 田村 健人

第74回 定期戦 「雨中の本戦で5連覇成る。来年も勝つぞ!」



果し状交換



綱引き



バスケットボール(部対抗)



駅伝



バレーボール(部対抗)



水泳

第74回定期戦得点表

部対抗		種 目	一般対抗	
高高	前高		高高	前高
		水 泳	9	0
		駅 伝	3	6
		綱引き	6	3
		玉入れ	0	9
		ソフトボール	6	3
		長縄跳び	6	0
0	6	卓 球	0	9
6	0	陸上競技	6	3
6	0	バレー ボール	8	1
6	0	バスケットボール	6	3
0	6	柔 道		
0	6	剣 道		
6	0	弓 道		
6	0	サッカ		
0	6	硬式野球		
6	0	軟式野球		
6	0	バドミントン		
42	24	小 計	50	37
総合計		高高	92	前高 61

★これまでの戦績は高高43勝、前高24勝、引き分け3です。

コロナの感染拡大が懸念されるため、応援ができなかったり、会場を一つにできなかったりなど困難なこともあったが、無事実施することができてよかった。協力をしてくださった先生方、実行委員会、一般生には感謝の気持ちでいっぱいだ。

定期戦で一番心に残った試合は、何といっても、14年ぶりの3タテという歴史的快挙を成し遂げた水泳だ。勝利を確信した

瞬間はとても感動した。

来年度も勝って、6連覇を実現してもらいたい。コロナが来年には終息しているとは限らない。もし今年度と同じ状況になってしまったとしても、定期戦の本質や行なわれる意義などを忘れずに、練習や本戦に臨んでほしい。

実行委員長 3年 根岸 歩夢

卒業生合格者数(全日制) ()内は現役

大学	年次	2年	令和元年	30年	大学	年次	2年	令和元年	30年	大学	年次	2年	令和元年	30年
北海道大		8(6)	16(11)	9(8)	金沢大		13(11)	15(13)	10(9)	中央大		32(22)	48(34)	37(28)
東北大		22(19)	23(15)	26(18)	信州大		6(4)	3(1)	2(2)	明治大		54(44)	49(30)	52(42)
筑波大		7(7)	6(4)	5(5)	名古屋大		3(3)	6(5)	3(3)	上智大		8(6)	7(3)	9(7)
千葉大		6(6)	8(5)	8(8)	京都大		5(3)	4(3)	3(3)	立教大		16(15)	12(8)	15(13)
群馬大		32(25)	32(26)	31(26)	高崎経済大		19(16)	24(24)	18(16)	法政大		37(30)	48(37)	34(27)
埼玉大		6(5)	3(3)	8(7)	東京都立大(首都大)		3(3)	2(1)	3(3)	日本大		46(29)	32(19)	39(32)
東京大		6(4)	7(4)	8(7)	国公立大 医学部医学科		9(8)	15(8)	13(10)	東京理科大		77(65)	63(43)	77(56)
一橋大		1(0)	0(0)	1(1)	慶應大		22(15)	18(7)	20(12)	芝浦工業大		71(57)	67(50)	56(40)
東京工業大		1(0)	0(0)	1(1)	早稲田大		37(27)	29(10)	38(28)	明治学院大		4(3)	3(1)	8(7)
東京外国語大		2(2)	2(0)	2(2)	同志社大		13(8)	8(4)	2(1)	新潟大		20(16)	19(18)	12(10)
横浜国立大		6(5)	4(3)	3(2)	立命館大		22(13)	21(12)	10(7)	運動部				
新潟大		20(16)	19(18)	12(10)	活躍部					学芸部				

活躍部活紹介

運動部	【陸上競技部】 第24回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会 5,000m 第3位 堀口花道 200m 出場 井上直紀 男子800m 出場 古原朋樹 走幅跳 出場 山口櫂 やり投 出場 石川和宗 三段跳 出場 松本新大 走高跳 出場 萩原飛幸 4×100mR 出場 萩原飛幸・松本新大・山口櫂・井上直紀													
	【軟式野球部】 第61回秋季関東地区高等学校軟式野球大会 出場													
	【文芸部】 第44回全国高等学校総合文化祭 文芸部門 優秀賞 大橋弘典 武元氣 第23回俳句甲子園全国高等学校俳句選手権大会 個人の部 入選 本城翔音 第24回全国高校生創作コンテスト 俳句の部 入選 武元氣 第35回全国高等学校文芸コンクール 短歌部門 優良賞 大橋弘典													
	【囲碁将棋部】 第36回関東地区高等学校囲碁選手権大会 個人戦 出場決定 小松佳弘 団体戦 出場決定 第31回関東地区高等学校文化連盟将棋大会 個人戦 出場決定 伊藤新													

令和2年度高崎高校人事異動

〈退任者・転出者〉

地歴	市川 高幸	清明高
地歴	井上 貴志	高崎北高
数学	須藤 育	清明高
理科	東宮 英文	定年退職
理科	岡田 一郎	定年退職
理科	星野 貴紀	渋川女子高
体育	田中 利明	県国体準備室
英語	江原 悠一	県立女子大外国語研究所
英語	林 孝彦	高崎北高
事務	上原 賴子	富岡高
事務	西潟 諒人	藤岡北高

〈新任者〉

地歴	飯塚 勇一	高崎北高
地歴	小島 敦子	前橋女子高
数学	今井 健太	太田市高
理科	川田 亮一	高崎女子校
理科	岡田 一郎	再任用教員として任用
体育	稻木 啓人	境原教諭の休職補助
英語	鈴木 崇元	渋川高
英語	高橋 建次	富岡高
事務	竹井万友佳	吾妻中央高
事務	天野 隼輔	万場高

通信制

教頭	中澤 政幸	渋川女子校
体育	板橋 勝弘	高高特
英語教諭	栗原 容	松井田高

〈新任者〉

教頭	徳江 和彦	前橋女子校
体育教諭	兵藤 敦紀	前橋商業高
英語	川崎 洋一	高崎東高

事業告

「先輩、教えてください！」

在校生が県内同窓生の皆様の職場にうかがい、職業に関する体験をさせてもらう進路学習事業が一昨年度より始まり、今年度は10月13日(火)に実施しました。受け入れてくださった同窓生の方々に、厚く御礼を申し上げます。

この事業は、在校生が講義や見学・実習を体験することで進路意識を高め、彼らが将来社会貢献できる人材となることを促す企画です。今年度は、「同業種の企業が多くある中で経営を成り立たせていくための工夫や苦労を伺い、今後社会人として生きていく意識を高める」ことをテーマとしました。当日は、本校2年生約270名が43箇所の職場を訪問しました。受け入れてくださった6分野の同窓生の所感をご紹介します。

医療

群馬中央病院

「後輩の訪問を心より感謝いたします」
独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院 院長 内藤 浩(79期)

このたびは当院にお越しいただき、ありがとうございます。コロナ禍のため施設見学に制限があり、医療現場の魅力を十分お伝えできなかつたことが残念で、また、申し訳なく思っています。今回は経営的な側面から、現役生の皆さんのが当院を評価してくれました。きわめて的確な分析と考察で、OBとして優秀な後輩が頼もしく、また、高崎高校出身者であることの誇りを改めて感じることができました。貴重な機会をいただき、心より感謝いたします。



経営・情報 税理士法人 真下経営

代表税理士 真下哲夫(84期)

今年度初めて生徒10名を受け入れました。税務会計業務という専門職ゆえ、生徒たちにどの程度理解してもらえるのかが不安でした。弊社の顧問先としては医療関係が多いという事もあり、当日はコロナ禍における医療機関の経営状況の話題が中心となりました。税務会計の細かい数値の話しそれ良かったかな、と思っています。我が家は、息子(現在2年在学中)で高高4代目になります。微力ではありますが、今後も母校の発展(行事)に協力できればと思っています。



教育・研究

群馬県立歴史博物館

「頼もしむ後輩に伝える」
学芸係長 深澤 敦仁(86期)

10月13日、2名の後輩が歴史博物館を訪ねてきました。私が嬉しかったのは、彼らが、「今の博物館をさらに魅力的にするには何が必要なのか?」という問題意識とその解決仮説を手土産としてもってきてくれたことでした。この手土産をもとに、私は博物館の理想と現実を館内の各施設をめぐりながら、彼らに伝えました。印象的だったのは、私が謎かけのような質問をしたときのことです。彼らは、私が心に秘めていた答えを、しばしの沈黙のあと、的確に答えました。頼もしむ後輩の姿を知り、私も何かを教えられた気分でした。



建設 藤田エンジニアリング株式会社

藤田 実(79期)

コロナ渦で世間が騒がしい時ですが、5名の後輩が来てくれました。新聞でも取り上げられた自社開発技術の「バイバイキング」で消毒し、感染対策をしっかり行ったうえで実施させていただきました。当社の事業やグループ企業の強みなどを動画や資料を交えて説明し、実際の完成現場なども見てもらうことで建設業を体感してもらいました。建設業は人手不足であり、業界全体でも深刻な問題になっています。そんな中、当社を選び、来てくれたことで建設業の魅力も伝えられたと同時に、後輩達の職業意識の高揚に繋がれば幸いです。来年もお会いできることを楽しみにしています!



行政・法律

富岡市役所

「先輩、教えてください!」で、先輩が教わること
企画財務部財政課・係長代理 原田 知也(100期)

当日は、群馬県立世界遺産センター見学後、まちなかを周遊しながら富岡製糸場に至り、整備を終えた西置繭所等を見学しました。生徒たちからは、市の強みとして建造物・展示物におけるデザイン性の高さや、まちなかの人たちの温かさが挙がった一方で、課題として若者が惹きつけられるような情報発信が必要である等、我々にとって示唆に富るものであった。将来、彼らの中から公務員を含めた「公」の担い手が誕生することを切に願ってやまない。



製造 (株)一倉製作所

「未来のビジネスマンから刺激」
一倉 史人(84期)

この度は、6名の生徒さんにご来社いただき、有難うございました。プラスチック製品の製造工程を見学していただき、見学後は「同業者が多い中でどうやって利益を出せるか」という切り口でプレゼンをしていただきました。仮説を立てるために当社のことをよく調べてあり、企業の存続に不可欠な「利益」についても多方面から良く考え抜かれていて、質疑応答も時間いっぱいまで活発にさせていただきました。最後は「予想以上に面白かった」との意見もいただきましたが、「ものづくり」の魅力を感じていただければ幸いです。

一倉氏は今年、厚労省が行う「現代の名工」に選ばされました。
(記:編集委員)





◆同窓会本部役員が総会にて承認されました。(任期2年、令和2~3年)

会長 坂本正樹(71期)	副会長 高橋浩生(78期)	副会長 徳江和彦(通信制教頭)
副会長 仙波憲一(68期)	副会長 波渕憲昭(81期)	会計監査 松岡光弘(77期)
副会長 清水正郎(75期)	副会長 田中幸雄(全日制教頭)	会計監査 小板橋敬之(81期)

◆今年度は新型コロナウイルス感染拡大により、以下のイベントが中止となりました。

関西翠巒会総会(2/28)、翠巒体育会総会(6/末)、藤岡翠巒会(7/4)、東京同窓会総会(10/23)、榛蘿翠巒会(11/14)

◆本部幹事会、常任理事会、理事会も中止、変則的に本部役員会、常任理事会及び理事会の同時開催となりました。

中心議題は令和3年1月23日の新年同窓会総会の件で、懇親会なしの開催と決まりました(詳細はP-22、90期挨拶に記載)。

◆維持会費 納入者数 推移

《35期～61期》

期	平成 22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 1年	2年
通信	25	20	23	15	35	26	27	18	35	41	25
定期	10	15	15	12	24	36	37	25	11	14	11
35	2	1	1	2	2	2			1		
36	2	1	2	1	1	1	1				
37	1	1	2	3	2	2		1			1
38	1	1	1		2	1					
39	5	2	3		3	2	1		1		
40	10	8	5	5	4	5	3	3	1	1	1
41	11	8	4	4	8	6	7	4	5	4	5
42	18	13	11	8	13	12	4	3	2	1	1
43	10	7	7	6	3	4	4		3	1	1
44	27	19	17	14	20	18	15	13	7	5	5
45	21	11	11	11	16	13	16	10	12	10	7
46	26	19	25	18	28	28	26	16	21	21	9
47	22	24	15	21	16	13	11	6	11	7	6
48					12	5	7	6	6	4	5
49	37	26	28	24	37	41	29	31	23	30	24
50	62	52	55	43	60	50	39	38	32	28	26
51	35	26	30	28	40	44	43	26	27	29	28
52	48	38	31	32	53	48	45	43	41	38	35
53	43	34	33	29	48	53	45	37	42	35	36
54	53	48	44	49	64	70	60	52	47	51	52
55	43	34	30	22	53	46	56	44	48	44	46
56	79	64	54	59	81	64	71	55	60	54	58
57	53	48	55	43	74	68	67	52	53	48	57
58	48	44	42	43	61	58	57	46	53	45	54
59	67	50	52	55	71	73	68	53	59	58	55
60	43	38	33	35	60	61	64	53	55	54	60
61	57	40	57	49	78	63	60	54	57	55	63

コンビニ納入開始

《62期～90期》

期	平成 22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 1年	2年
62	44	41	33	39	64	69	74	55	56	61	61
63	50	45	45	43	69	68	60	62	60	55	63
64	38	36	37	33	62	50	50	42	55	54	47
65	27	28	27	25	61	60	55	48	46	52	49
66	43	34	29	30	76	59	55	45	49	53	61
67	31	26	32	33	58	55	60	50	49	53	56
68	32	24	24	18	47	43	47	42	42	37	42
69	27	26	28	23	52	54	74	63	55	75	72
70	36	28	28	32	51	56	44	581	45	50	57
71	34	28	30	27	63	44	46	48	43	50	58
72	38	32	30	32	53	55	62	49	52	58	57
73	32	31	29	26	40	48	51	48	47	48	56
74	52	49	43	43	59	51	40	58	43	49	48
75	33	39	32	32	47	54	47	43	37	44	59
76	32	27	24	33	55	58	57	41	57	54	59
77	30	27	26	23	46	45	41	44	43	47	49
78	39	25	30	26	52	50	46	75	77	55	53
79	121	26	33	27	48	43	57	49	49	51	46
80	138	121	24	46	51	54	47	45	47	54	69
81	30	116	113	62	58	65	54	55	57	45	60
82	22	20	139	115	81	86	77	65	70	68	65
83	15	17	17	68	81	97	75	41	35	36	34
84	19	16	13	46	139	103	53	38	38	40	35
85	21	26	23	25	49	175	143	70	54	53	49
86	17	9	13	20	22	56	187	128	45	45	45
87	8	5	12	20	27	35	44	87	143	50	45
88	14	14	12	14	22	30	30	22	107	137	53
89	14	11	10	13	24	22	29	26	28	78	54
90	11	8	13	12	15	15	14	11	12	59	58

コンビニ納入開始

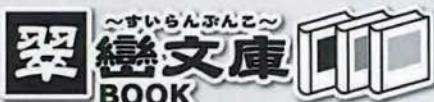
《91期～118期》

期	平成 22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和 1年	2年
91	21	15	14	17	21	30	23	19	26	31	30
92	12	17	18	15	27	27	24	18	22	24	25
93	8	7	7	3	12	11	10	8	9	11	15
94	6	6	8	4	13	14	26	13	11	20	13
95	8	6	4	9	15	9	15	9	10	9	9
96	7	9	8	5	15	11	18	9	10	15	13
97	6	3	3	3	10	13	8	13	10	12	13
98	8	3	4	4	10	9	8	5	9	7	9
99	8	6	5	6	12	13	13	11	14	13	16
100	10	8	12	10	16	15	14	12	12	9	12
101	12	11	8	7	12	12	11	9	16	10	15
102	17	15	13	12	13	18	14	9	14	11	11
103	20	11	15	11	22	22	16	17	12	12	13
104	13	9	13	4	14	15	16	13	16	14	12
105	30	17	14	14	18	19	16	16	14	12	11
106	28	15	15	14	27	19	24	21	18	23	25
107	26	13	13	8	21	17	22	10	14	17	10
108	28	15	18	8	26	19	19	13	12	15	15
109	24	16	11	28	22	15	18	13	16	10	
110		20	12	24	25	20	22	10	13	11	
111			19	39	28	30	13	15	16	12	
112				66	48	32	28	24	21	17	
113					63	45	31	27	21	22	
114						59	42	31	29	24	

令和2年 褒章・叙勲等受章者

(期別50音順 敬称略)

瑞宝双光章	田部井康修(51期)	旭日双光章	串田 紀之(67期)	国土交通大臣表彰	川手 義昭(62期)
瑞宝双光章	芳野 一雄(51期)	旭日双光章	堀口 廣政(67期)	文部科学大臣表彰	大井 利之(77期)
瑞宝双光章	佐藤 和雄(51期)	瑞宝中綬章	仁井 正夫(67期)	文部科学大臣表彰	戸塚 泰聖(77期)
瑞宝小綬章	田島 進(59期)	瑞宝双光章	桑原 幸正(67期)		
旭日中綬章	小林 優公(66期)	瑞宝小綬章	岡部 安水(68期)		



◆翠巒文庫について◆ 翠巒文庫は、著者または訳者が高崎高校の卒業生及び関係職員であり、本人またはその関係者から寄贈された図書で構成されています。

〈令和元年10月1日～令和2年9月30日〉

●著書／作者

- 道標なき旅程Ⅱ 精神科医のまなざしからみる診療コンセプトと機微 枝窪 俊夫(67期)
- ハイスコア！共通テスト攻略 化学基礎 金井 明(68期)
- 戦いなければ哲学なし 中島政希回顧録 増補版 中島 政希(71期) 関口 秀紀(72期)
- 太宰治と仙台 須永 誠(74期)
- 正々堂々と -前橋高校長三年間の軌跡- 小笠原祐治(75期)

同窓会だより

第119回高中・高高同窓会は新年総会のみ開催し、

懇親会は中止といたします。

90期代表幹事
塙越・石橋司法書士事務所 石橋 修

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

私は、第119回同窓会新年会の当番幹事を務めます90期代表幹事の石橋と申します。私ども90期一同は、同期の力を結集して新年総会を造り上げることを大変楽しみにしておりました。

しかし、新型コロナウイルス感染防止を最優先に考え、誠に残念ではありますが、来年1月に開催予定の第119回新年総会につきましては、下記のとおり総会のみを開催し、懇親会は中止とさせていただく運びとなりました。

なお、会場も例年とは異なり、群馬音楽センターでの開催を予定しております。

他方、母校では後輩たちの部活動等も制限される事態となっており、演奏会等の発表の機会が失われているとも聞き及んでいます。そこで、今回は総会開始前に時間を取り、吹奏楽

部・和太鼓部・マンドリン部のために演奏の機会を設けることといたしました。

つきましては、ご多忙のところ恐縮でございますが、多数の同窓生の皆様に新年総会及び現役生による演奏会にご出席賜りたく、ご案内申し上げます。

なお、当日は万全の体制にて臨むべく準備を進めておりますが、新型コロナウイルス感染防止対策については、群馬音楽センターの利用基準に則って行います。事前に群馬音楽センターのHPでご確認いただけますと幸甚です。

また、コロナウイルス感染症の蔓延により緊急事態宣言が発令された場合など、総会自体を中止すると判断した場合には、同窓会HPにて告知いたしますので、各位にてご確認くださいますようお願い申し上げます。



第119回 高中・高高同窓会新年総会のご案内

【日時】令和3年1月23日(土)

【会場】群馬音楽センター(TEL. 027-322-4527)

午後0時30分開場 《吹奏楽部・和太鼓部・マンドリン部による演奏会》 ◎観覧は無料です。
午後1時 開演

午後3時20分開始 《第119回高中・高高同窓会 新年総会》 ◎会費はございません。
※第119回高中・高高同窓会懇親会(中止)

◆老朽化した中型バス買い換えに対してのご協力・ご支援のお願い

現在、母校にて活用しております中型バスは2台あります。その内の古いバスは、平成7年登録、購入は平成15年での中古車にて使用しております。部活動のみならず幅広く運用され、生徒たちには必須な移動手段となっております。

今回このバスを新マイクロバス(約800万円)に換えたく、その購入資金の一部を同窓生皆様からご支援賜り、今年度の同窓会費納入と共に、一口1,000円以上の購入協力金をお願いしたく存じます。



高高同窓会 予算決算報告

令和元年度 通常会計決算

(平成31年1月1日～令和元年12月31日)

収入の部

費目	予算額	決算額	増△減	備考
前年度からの繰越金	170,612	170,612	0	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	2,858,000	6,000	全員制280名(@9,900) 通信制43名(@2,000)
維持会費	8,000,000	8,142,283	142,283	2,777名(常任理事10,000、理事 5,000、一般2,000)
利息	-	-	-	
雑収入	300,388	392,136	91,748	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	11,323,000	11,563,031	240,031	

支出の部

費目	予算額	決算額	残額	備考
会議費	1,200,000	1,223,664	△ 23,664	新年総会準備ほか
祝賀費	900,000	905,744	△ 5,744	叙勲・卒業記念品ほか
餞別費	180,000	140,000	40,000	平成30年度末離退職員餞別
慶弔費	70,000	64,800	5,200	供花
通信印刷費	500,000	579,212	△ 79,212	維持会費督促状・納入礼状・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	130,000	140,000	△ 10,000	東京同窓会出席者旅費
同窓会報費	3,950,000	4,306,141	△ 356,141	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,400,000	1,420,636	△ 20,636	事務局職員人件費(退職金 積立60,000)、事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	29,160	70,840	賞状・記念品ほか
資料整理費	250,000	167,200	82,800	Webサイト管理費ほか
補助費	1,500,000	1,400,000	100,000	翠巒体育会・生徒活動補助 部活動補助
環境整備費	600,000	406,467	193,533	指月庭及びパーキングの維持管理費
雑費	500,000	414,410	85,590	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	0	0	
予備費	43,000	0	43,000	
合計	11,323,000	11,197,434	125,566	

収入総額(円) - 支出総額(円) = 差引繰越残額(円)
 11,563,031 11,197,434 365,597

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	10,085,680円
	令和元年度通常会計より	0円
	事務局職員退職金積立	60,000円
	利息	792円
合計		10,146,472円

支出の部	母校充実費	994,464円
	事務局職員退職金積立会計	240,000円
合計		1,234,464円
当年度差引残額		8,912,008円

令和2年度 通常会計予算

(令和元年1月1日～令和2年12月31日)

収入の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
前年度からの繰越金	365,597	170,612	194,985	前年度から繰越金
入会金	2,852,000	2,852,000	0	全員制280名(@9,900) 通信制40名(@2,000)
維持会費	8,150,000	8,000,000	150,000	3,000名(常任理事10,000、理事 5,000、一般2,000)
利息	-	-	-	
雑収入	382,403	300,388	82,015	Webサイト協賛金・記念品収入・ 名簿収入・利息ほか
合計	11,750,000	11,323,000	427,000	

支出の部

費目	今年度予算	前年度予算	増△減	備考
会議費	1,270,000	1,200,000	70,000	新年総会準備ほか
祝賀費	1,000,000	900,000	100,000	叙勲・卒業記念品・東京同窓会・ 大阪同窓会ほか
餞別費	180,000	180,000	0	令和元年度末退職員餞別
慶弔費	70,000	70,000	0	供花
通信印刷費	500,000	500,000	0	維持会費・理事会通知・ 翠巒会館電話代ほか
旅費	240,000	130,000	110,000	東京同窓会出席者旅費・ 大阪同窓会出席者旅費
同窓会報費	4,300,000	3,950,000	350,000	同窓会報発行費および発送費
事務費	1,450,000	1,400,000	50,000	事務局職員人件費(退職金 積立60,000)、事務用品ほか
同窓会長賞費	100,000	100,000	0	賞状・記念品ほか
資料整理費	200,000	250,000	△ 50,000	Webサイト管理費・ 各会報のデジタル化費用
補助費	1,450,000	1,500,000	△ 50,000	翠巒体育・生徒活動補助・ 部活動補助
環境整備費	500,000	600,000	△ 100,000	指月庭維持管理費
雑費	450,000	500,000	△ 50,000	維持会費等の振込手数料ほか
特別会計積立	0	0	0	
予備費	40,000	43,000	△ 3,000	
合計	11,750,000	11,323,000	427,000	

特別会計積立

収入の部	前年度からの繰越金	8,912,008円
	令和2年度通常会計より	0円
	利息	992円
合計		8,913,000円
支出の部	母校充実費	1,500,000円
合計		1,500,000円

事務職員退職金積立

収入の部	令和2年通常会計(事務費)から	60,000円
合計		60,000円

事務職員退職金積立(令和元年末240,000)



令和3年度維持会費納入のお願い

同封の振込取扱票により、郵便局又はコンビニエンスストアにて納入いただきますようお願いいたします。なお、ご住所、金額等を変更される場合は郵便局での扱いになります。(郵便局での納入は、できればATMのご利用をお願いいたします)。またクレジット振込も可能となりましたので、詳しくはホームページをご覧ください。



群馬県立高崎高等学校 同窓会報

【編集委員】 委員長 田端 穂(54期)

吉永哲郎(54期) 大木紀元(58期) 若山 享(58期)

立見友孝(63期) 波多野重雄(77期) 新井重雄(78期)

竹内 聰(79期) 花井好機(82期) 反町 豊(99期)

菊地将史(107期)

編集後記 同窓の皆様の多大なるご協力をいただき、会報第54号が発刊できました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。御多忙の中、貴重な原稿やお写真をお寄せくださいまして、誠にありがとうございました。(編集委員)

【編集委員からのお願い】

同窓会報1号(1967年)~6号(1972年)をお持ちの方がいらっしゃいましたら、同窓会事務局までご連絡ください。

群馬県立高崎高等学校 同窓会事務局

〒370-0861 群馬県高崎市八千代町2-4-1 TEL&FAX 027-320-6024 メール:suiran@email.plala.or.jp